

研究計画書

ゼミ名	石田ゼミⅡB	チーム名	財布持ちません！
タイトル	キャッシュレスの今		
テーマ群	b) 財政・金融		
メンバー			
研究計画内容	<p>いま新型コロナウイルスの感染拡大で非接触の支払いを推奨している店舗も多く、政府もキャッシュレス決済を推進しようとしている。しかし、現状として日本は諸外国と比べ、経済のキャッシュレス化は遅れている。2015 年の世界各国のキャッシュレス決済比率ランキング 1 位韓国 2 位中国 3 位カナダなどの主要国が 50%を超えているが、日本は 20%程度にとどまっている。本研究ではこの点に着目し、キャッシュレスが進んでいる主要国とキャッシュレスの普及が遅い日本の比較を金銭文化・金融制度・商習慣の観点から多面的に比較し、その原因の解明を試みる。また、2022 年にデジタル通貨の発行を目指す中国については特に深く掘り下げ、日本経済にどのような影響を与えていくかを考察する。</p> <p>まず、日本の現状だが、前述の通り日本はキャッシュレス化が遅れている。考えられる理由としては、治安が良く盗難にあう可能性が低い、偽札が少なく現金の信用度が高いなどがあげられることが多い。これら通説が本当に正しいのかについて、政府・日銀東野現金利用統計データやアンケート調査の結果から検証する。</p> <p>次に、キャッシュレス化が進む韓国・中国・カナダと普及が遅い日本を比較していく。その中から、私たちは特に中国に注目していく。なぜなら、世界初のデジタル通貨の発行を目指しているからである。中国政府は 2022 年 2 月の北京冬季五輪までのデジタル人民元の発行をにらんでいる。中国はデジタル通貨の流通に向けた立証実験を 10 月 18 日に終えたところである。また、中国人民銀行改正の草案に盛り込んでいると発表した。草案では、「人民元は実物形式とデータ形式からなる」と規定する予定である。</p>		